

# 令和4年度学校自己評価システムシート ( 県立鴻巣女子高等学校 )

目指す学校像	(1) 自立した女性の育成 (2) スペシャリストの育成
--------	------------------------------

重点目標	1 学習環境の整備と授業改善を通して、生徒一人一人の学力を向上させる。 2 きめ細やかな指導を通して、生徒の主体的な進路実現を支援する。 3 規律ある高校生活を通して、生徒一人一人を大切にしている指導を推進する。 4 地域との連携事業や情報発信を通して、地域に貢献する学校づくりを推進する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	(現状) 学習環境づくりの指針「授業5原則」「CLEAN THE TABLE」「朝読書」の徹底で、大半の生徒は落ちついて学習活動を行っている。また、ICT関係の整備や教員の研鑽により、ICT機器を活用した授業が積極的に行われている。 (課題) 昨年度当初に比べ、教員のICT活用能力は大幅に向上した。さらなる活用を目指すとともに、評価方法や実習授業における扱い等を研究する必要がある。	生徒一人一人に学科・教科ごとの具体的な目標を持たせ、学習意欲や学力を向上させられたか。	①学科毎・授業毎の年間学習計画を説明し、生徒に学習の目標を明確にさせる。(学年・授業担当) 学期毎に振り返りを行い、生徒各自でまとめさせる。(授業担当) ②授業外の学習(課題・予習・復習)を生徒に具体的に指示し、提出させる。(授業担当) ③授業評価アンケートを行い、年度内授業改善に活かす。(授業担当) ④各種研修会や授業公開週間等を活用し、教員間の学び合いを充実する。(複数回実施) ⑤授業におけるICTの活用を図る。(授業担当)	①③学習意欲と学力向上の意識高めた生徒の割合(前年度比1割増) ②家庭学習時間の状況(前年度との比較) ④研修会等の実施状況と成果 ⑤活用した教員の割合・頻度		
2	(現状) 自立した社会人になれるよう、学年に応じた体系的な進路指導を行っており、一定の成果を得ている。 (課題) 生徒のニーズの多様化に対応した指導方法、オンラインへの対応等の研究が必要である。また、保護者に対する情報発信と進路行事への参加機会の充実等、家庭連携の深化も課題である。	生徒一人一人の進路実現に向けて、適切な進路指導計画、キャリア教育を一層拡充させられたか。	①基礎力診断テストの結果を活用して、生徒の実態を把握する。(進路部・学年・授業担当) ②進路の手引きを定期的に活用し、進路行事・キャリア教育の振り返りを行わせることで生徒の進路意識を高める。(学年・クラス) ③進路希望調査、二者面談、三者面談を実施し、生徒の実態を把握することで個々に応じた指導を行い、進路未決定者を減少させる。(担任) ④講演会や相談会など、保護者への進路関連行事を実施する。(進路部) ⑤進学補習や就職希望者向けの特別講座を実施する。(学年・進路部)	①テスト結果の分析と活用状況 ②③進路意識を高めた生徒の割合(前年度比1割増) ③進路未決定者の割合(前年度比較) ④保護者の進路行事参加状況と成果 ⑤実施回数など		
3	(現状) コロナ禍においても学校行事等を工夫することで多くの生徒が主体的に参画している。基本的な生活習慣の確立や自己管理能力を向上させる取組により、生徒の自己肯定感を高める指導を行っている。 (課題) 自己肯定感の育成はまだ道半ばである。また、ネット社会のトラブル防止やマナー向上を図ることにより、他者を思いやる「気付き」力を養う取組を行う。	生徒の自己管理能力、コミュニケーション力と他者を思いやる「気付き」力を育成するとともに、各種の個別支援体制を改善する。	①生徒手帳の活用方法を説明し、生徒各自にスケジュール管理を徹底させる。(クラス担任) 生徒手帳の記入状況を確認することで、生徒の自己管理の状況を把握・指導する。(クラス担任) ②各種のマナーの向上や良好な人間関係の構築、SNSトラブル等に関する講演会、学習会を実施する。(生徒部、在り方生き方に係る教育推進委員会) ③荷物ダイエット等、日常的に整理・整頓できるように粘り強い指導を行う。(学年) ④不安や悩みを持つ生徒への教育相談やカウンセリング機能を整えて実施する。(体制の整備・強化)	①②③学校生活アンケート調査結果による成果と前年度比較 ①自己管理の意識を高めた生徒の割合(前年度比1割増) ②各種講演会等の事後アンケート項目の肯定的回答(8割以上) ④個別支援に関するアンケート項目の肯定的回答(前年度比1割増)		
4	(現状) コロナ禍により、地域等の催し物・イベント等への参加が難しい状況が続いている。一方、外部の様々な団体でオンラインを活用した取組など、新しい連携方法が試みられている。 (課題) コロナ禍においても外部連携や情報発信はきわめて大切である。また、生徒の社会貢献意識は高く、外部機関とWIN・WINの関係づくりを学校全体で進めていく必要がある。	オンラインの活用などを検討し、生徒の活躍の場をさらに広げ、自己肯定感や自己有用感を高める。	①多くの生徒が地域交流や学校行事に参画できるように丁寧に粘り強く指導・支援する。(通年:生徒部、教科担当) ②各種の体験活動、外部連携事業等の内容を見直し改善を図る。(担当) ③新規のイベント、ボランティア要請に適切に対応し、生徒が参加できるように支援する(担当) ④オンラインを活用した情報発信や外部連携を研究する。(通年:教務部・生徒部)	①③地域交流等の実施状況と成果 ①学校行事に積極的に参加する生徒の割合(前年度比1割増) ②③体験活動、ボランティア参加等に関するアンケート調査結果による成果(前年度比1割増) ④実施回数など		

学 校 関 係 者 評 価		
実施日	令和	年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等		